

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年8月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670900535
法人名	社会福祉法人 永山会
事業所名	グループホーム 天寿
所在地	京都市伏見区桃山町遠山37-3 (電話) 075-622-8777

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年7月21日
評価確定日	平成21年9月17日

【情報提供票より】(平成 21年 6 月 12 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.5 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~75,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 400,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要( 6 月 12 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 蘇生会総合病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人永山会が運営する当該ホームは閑静な住宅街にあり、民家を改造しサービスと併設されています。玄関には、広い庭で利用者と共に作られた野菜が「本日の収穫」として置いてあり、食事が楽しみなものとなっています。職員は利用者と一緒に暮らす中で、階段の昇り降りや段差を生活リハビリに取り入れたりパッチワークや貼り絵、塗り絵などの手作業を取り入れ集中できる時間を作っています。塗り絵の色使いから、利用者の精神状態や感情を把握するように努めています。また、利用者と共に地域の行事に参加したり、ホームで収穫された野菜を近隣の方におすそ分けをしたり、ホームで開催される納涼会にお誘いするなど積極的に地域の中に溶け込み交流されているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、課題である事業所独自の理念について、法人の理念を基に管理者が考え職員と話し合い作り直しました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、昨年度の評価結果を職員に見てもらいながら、今年度の意見を聞き管理者がまとめました。それを職員に見てもらい、話し合いながら改善に向けて取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や民生委員、地域包括支援センター職員、施設長などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催されています。行事・予定・活動・利用者状況などをホームから報告し、家族からの評価や参加者からの助言を頂き意見交換がなされ有意義な場となっています。管理者は、些細なことでも相談し意見を求めサービスに活かせるように取り組んでいます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情受け付けボックスを設置すると共に、年に2回の家族会が開催されています。来訪時や運営推進会議など出来る限り要望を聞くよう心がけています。意見などが出た時には、報告書に残し、対応策について職員で話し合い家族に報告しています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しています。小学校や地域の運動会、地藏盆、公園の掃除に利用者と一緒に参加しています。ホームで収穫された野菜を地域の方におすそ分けしたり、ホームで開催される納涼会にお誘いするなど積極的に地域と交流されています。また、自治会長にホームでの季刊誌を地域の方々に回覧してもらえるようお願いしています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「明るく・楽しく・美しく」を基に地域の中で暮らし続けていくために「入居者も職員も居心地良い場所作り」というホーム独自の理念を作りました。管理者の思いや考えを職員に伝え出来たものです。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やカンファレンスなどで理念に基づいたケアが出来ているか話し合っています。また、玄関やリビングなどの見やすい所に掲示しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しています。小学校や地区の運動会、地蔵盆、公園の掃除など案内を頂いたものには利用者と一緒に参加しています。ホームで収穫された野菜を地域の方におすそ分けしたりホームで開催される納涼会にお誘いしています。また、ホームの季刊誌を地域の方々に回覧してもらえるように自治会長にお願いしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、職員に昨年の評価結果を見てもらい意見を聞き管理者がまとめました。会議で外部評価の意義と目的について管理者は説明し、改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員、地域包括支援センター職員、施設長などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームの行事や予定、利用者状況などを報告し、家族からの評価や参加者からの助言を頂き意見交換をしています。また、管理者は些細なことでも参加者に相談や意見を求め、サービスに活かし有意義な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議録を区役所に持参し、京都市の地域密着担当者と法人はメールでのやり取りをしていますが、直接ホームから相談するには至っていません。	○	運営推進会議録を持参する時に、ホームの季刊誌も持参したり運営状況を知ってもらい、困難事例や相談が出来るような関係を築かれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の様子については、来訪時や電話等で報告しています。また、行事の写真や家族から利用者宛ての手紙などを掲載した季刊誌「てんてん天寿」や法人の発行している「桃太郎だより」を送付し、担当職員からのコメントも同封しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受け付けボックスを置いています。来訪時や家族会、運営推進会議で、要望等聞くように心がけています。要望や意見があれば、記録に残し職員で対応策を話し合い家族に報告しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はやむを得ませんが、管理者はシフト調整の配慮や話をするきっかけを作り気軽に話ができるように心がけています。新任職員は、現任の職員に着きながら少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画があり参加しています。参加後はレポートを提出し、資料を回覧し会議やカンファレンスで報告をしています。外部研修では、認知症実践者研修に参加しています。今後、レクリエーション担当や食事担当の職員が担当に応じた研修に参加できるように考えています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の職員との交流やグループホーム協議会の研修会に参加しています。研修には今年は1回しか参加できず、交流や意見交換をするまでには至っていません。	○	他のホームとの交流で見直しや振り返る機会になります。意見交換や交換研修などを検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に出来るだけ利用者や家族に見学に来てもらえるようにしています。管理者と計画作成担当者が自宅を訪問し、利用者や家族から入居前の生活についての情報をたくさん得て入居の準備をしています。入居後は、家族の協力も得ながら少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活する中で、家事や生活の知恵を教わっています。コミュニケーションを大切に利用者を理解し尊重して何でも話し合える関係づくりに努めています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのかかわりの中で様子を観察し状況に応じて、その時々意向が把握できるようにしています。日々行われている塗り絵の色使いからも感情や精神状態をくみ取るようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用し、家族や利用者の希望や意見を取り入れ、定期的に行われるカンファレンスで職員の意見やアイデアも取り入れた介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングや評価を行い、ケアチェックをしています。必ず家族に参加してもらい担当者会議を6か月ごとに開き、見直しをしています。家族の意見を基に日々の介護記録や医師の意見も取り入れながら見直しに繋がっています。また、状態に変化があったときには、随時見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や送迎、買い物など利用者の希望や要望に合わせた柔軟な支援をしています。また併設のサービスと合同で行事を開催し、日々の暮らしに変化を持たせています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族や利用者とは相談してかかりつけ医を決めています。緊急時は母体である蘇生会病院で診てもらっていますが、提携医の往診が2週間に1回あり希望された利用者のみ受診しています。また、サービスに看護師がおり、必要時相談しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時「口から食事ができなくなれば入院になる」ことを家族に説明しています。状況に応じて、家族と早めに話し合いを重ねながら、法人の病院や特養と連携があることも説明し、支援しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の行う年2回の接遇研修に参加しており、参加できない職員には資料を回覧し内容を共有しています。気になる発言のある時はその都度、管理者や職員同士で注意し合っています。個人記録については鍵のかかるスタッフルームに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはありますが、利用者の思いやペースに合わせのんびりと快適な生活が送れる様に心がけています。また、何かに夢中になっている時には、利用者の様子を見ながらそれを楽しめるように支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	土・日曜日は食事担当者が利用者の意見も取り入れた献立を立て、買い物から利用者と一緒に行き、キッチンに立って包丁を使いながら下ごしらえをしています。食事の話をしたり、味見など意見を聞きながら出来る事に携わってもらっています。また、職員も利用者と同じものを食べています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14時から17時30分位まで入浴ができます。2日に1回は必ず入れる様に支援しており、シャワー浴、夜間入浴も要望があれば応じています。ホームの浴槽は深く、入りづらく危険なためデイサービスの浴槽を使用しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除や調理の準備など今までしていた事が継続できるように役割としています。庭で採れた野菜や昼食前に体操を取り入れた民謡を毎日の楽しみとしたり、塗り絵や貼り絵、色紙を丸めて作る作品など出来上がりが楽しみとなるような大作もみんなで協力して行っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出かけたり、ホームの広い庭や傍にある自動販売機までジュースを買いに行ったりしています。また、1～2週間に1度は車で買い物に出かけています。今後、行きつけの場所を作りたいと考えています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関や門扉は、利用者の安全と生命を守るため、他の利用者のサービス低下を防ぐため鍵を掛けていましたが、職員間で話し合った結果、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いの下、火災場所の設定や消火器の位置、非常口の確認や夜間対応の話し合いもしながら避難訓練をしています。また、地域の方にも参加してもらえるようにチラシを配布しましたが、参加はありませんでした。地域の災害の勉強会に参加しています。	○	地域の消防団に呼びかけたり運営推進会議を利用して地域の方にホームの状況を知ってもらい訓練に参加してもらえるように再度呼びかけを継続されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立を参考に利用者一人ひとりの嚥下や咀嚼状況に応じた食事を提供しています。嫌いなものや食べられないものには代替えを用意し、食事が全量摂れなかった場合や必要な利用者の水分量を記録しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭には利用者と一緒に作った畑があり、季節の野菜や花を植え、収穫を楽しんでいます。また、キッチンも広く利用者と一緒に調理されている音や食事の匂いも漂ってきます。リビングは明るく利用者が一緒に塗り絵や貼り絵などに夢中になるなど居心地よく過ごせる共用空間となっています。窓の外には広いデッキがあり、春や秋の暖かい日には寝ころびながら日向ぼっこをされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活を継続できるように畳を敷いて布団で休まれたり、ベッド、テレビ、ちゃぶ台、タンス、ソファなどを持ち込み、利用者の思いのままの居室ができ居心地よく過ごせるように家族と相談しながら工夫しています。		